

2026 年 8 月 21 日

文部科学省 数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）

自己点検・評価報告書

常葉大学教養教育運営委員会

1. 概要

本学では、全学部・全学科の学生を対象に、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と活用力を身につけるための「常葉大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を実施している。本プログラムは令和 7 年 8 月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けており、「情報リテラシー I（AI 活用を含む）」及び「情報リテラシー I（数理・DS を含む）」を通して、データや AI を活用した課題解決力や情報活用能力の育成を目指している。

2. 評価体制

本学では、教育研究活動の質保証と継続的な改善を推進するため、教養教育運営委員会において学修成果や運営状況等の点検・評価を行い、その結果をプログラムの改善・進化に反映している。

3. 自己点検・評価の対象科目

情報リテラシー I（AI 活用を含む）	1 単位（全学必修科目）
情報リテラシー II（数理・DS を含む）	1 単位（全学必修科目）

4. 自己点検・評価の内容

(1) プログラムの履修・修了の状況

令和 8 年度の s 履修状況について、「情報リテラシー I（AI 活用を含む）」は、履修者数 2,163 名、修了者数 2,020 名（単位修得率：93.4%）であった。なお、「情報リテラシー II（数理・DS を含む）」は、後期に開講予定である。

対して、令和 7 年度（昨年度）の履修状況について、「情報リテラシー I（AI 活用を含

む)」および「情報リテラシーⅡ（数理・DSを含む）」の履修者数 1,819 名、修了者数 1,695 名（単位修得率：93.2%）であった。昨年度と比較して単位修得率が向上したことが認められた。

(2) 学生アンケートの評価

2026 年度前期に開講した「情報リテラシーⅠ（AI 活用を含む）」に関して、履修者を対象に、授業内容の理解度や満足度を把握するために、授業アンケートを実施した。回答者数は 1,602 名であり、回答率は 74.1%であった。なお、各項目は 4 件法による選択式で調査し、順位尺度として得られた回答を 1～4 点の間隔尺度として扱うことで定量化を図った。

はじめに、「情報リテラシーⅠ（AI 活用を含む）の授業内容を理解できましたか？」の設問について、「とても理解できた」「少し理解できた」「あまり理解できなかった」「まったく理解できなかった」の 4 件法で確認したところ、平均値 3.39 (SD 0.56) であった。これは、多くの学生が授業内容を十分に理解できたと認識していることを示しており、本科目の学習目標がおおむね達成されていることがうかがえる。次に「AI を学ぶ楽しさや、学ぶことの意義を理解できましたか？」という設問に対して、同じく「とても理解できた」「少し理解できた」「あまり理解できなかった」「まったく理解できなかった」の 4 件法で確認したところ、平均値 3.40 (SD 0.58) という結果が得られた。これは、授業を通じて AI に対する関心や学習意欲が高まり、AI を学ぶ価値や必要性について多くの学生が理解できたことを示している。最後に「後輩等他の学生に対して、情報リテラシーⅠ（AI 活用を含む）の履修を推奨したいと思いますか？」について、「とても推奨したい」「少し推奨したい」「あまり推奨したくない」「まったく推奨したくない」の 4 件法で確認したところ、平均 3.48 (SD 0.57) の値が示された。これは、多くの学生が本科目の学習内容や学習経験を肯定的に評価し、授業に対する満足度が高く、学生間での推奨意向も強いことを示している。

一方で、学生による自由記述回答から、学部・学科間における評価方法や単位修得状況に若干の差が認められた。この点は、プログラムの質保証の観点から今後の課題として位置付けられる。今後は、教養教育運営委員会において要因分析を行うとともに、評価基準や授業運営の在り方について検討し、教育の質保証及び学習成果の均質化に向けた改善を進める。なお、アンケート項目の見直しにより、令和 7 年度は評価尺度を 5 件法から 4 件法へ変更した。そのため、評価尺度の連続性が確保されていないことから、年度間比較については行っていない。

続いて、教員を対象としたアンケートについては、回答の負担を考慮して毎年度後期終了後に実施している（今年度は令和 9 年 1 月予定）。なお、令和 7 年度（昨年度）の教員アンケートでは、数理・データサイエンス・AI の内容について「十分に取り入れた」又は「少し取り入れた」と回答した教員が大半を占め、本プログラムの内容がおおむね授業に反映さ

れていることが確認されている。また、学生の理解度についても多くの教員が「十分に理解していた」または「少し理解していた」と評価しており、教育内容が学生に適切に伝わっていることが示された。教養教育運営委員会を中心に、数理・データサイエンス・AI 教育に関する各種講座やセミナーの情報を共有し、担当教員の資質向上と教育内容の充実に努めている。

(3) 履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

全学的な履修者数と履修率向上に関して、情報リテラシー I（AI 活用を含む）と情報リテラシー II（数理・DS を含む）は 1 年次開講科目の必修科目であり、文系・理系を問わず全学生が履修するため、履修率は常に 100%となる。

(4) 学外からの視点等

本学では、キャリアサポートセンターによる定期的な進路調査を通じて、本プログラム修了者の進路状況を把握している。また、当該プログラムについて学外有識者や企業から継続的に意見を収集し、その結果をプログラムの改善・発展に活用している。今後は、修了者の就職先企業を対象とした調査も実施し、教育効果の検証に努める予定である。

5. 総合評価

自己点検・評価の結果、本プログラムは全学必修科目として適切に運営されており、教育目標の達成に向けて良好な成果を上げていると評価できる。単位修得率は 93.4%と高い水準を維持し、前年度を上回る結果となった。また、学生アンケートでは授業内容の理解度、AI を学ぶ意義の理解、他学生への推奨意向のいずれも高い評価が得られ、本プログラムが学生の数理・データサイエンス・AI に関する基礎的素養の育成に寄与していることが確認された。一方で、学部・学科間における評価方法や単位修得状況に若干の差が認められたことから、今後は教養教育運営委員会を中心に要因分析を行い、評価基準や授業運営の改善を進める必要がある。

以上より、本プログラムは高い教育効果を有していると評価でき、今後も教養教育運営委員会における継続的な点検・改善を通じて、さらなる教育の質向上を目指していく。